

事例 6 体験活動と表現活動を繰り返し行い、気付きの質を高める事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 季節の変化と生活 内容(5)
自然や物を使った遊び 内容(6)
- 事例のポイント
 - ①児童の思いや願いを実現する体験活動を工夫する。
 - ②主体的・対話的に活動できるように、表現活動を工夫する。

ICTを活用した主な学習場面

- ・ 季節の変化を記録に残す場面
- ・ 自然物や生き物を調べる場面
- ・ 楽しかった秋の学習を発表する場面

ICT活用の利点

- ①自然の様子を写真に収め、記録として残すことで、季節の変化に気づきやすくなる。
- ②気になった自然物や生き物について詳しく調べることにより、興味関心が高まる。
- ③自分が発表したいことについて、表現方法の選択肢が増える。

1 単元名 「あきと ともだち」 (17 時間)

2 単元について

(1) 児童の実態について

本単元に関わる1学期の学習では、校庭の春探しをしたり、初夏に地域の公園や土手に出かけたりして、四季の変化を感じながら、身近な自然に親しむ活動を行ってきた。

活動後には、必ず見付けたことや気付いたことを学習カードやICT端末に記録し、全体の前で発表したり、友達と伝え合ったりする表現活動を行ってきた。1学期当初は、何をどのように書いたらよいのかわからず、書く活動がとまってしまった児童も、五感を使って対象を観察するよう促したことにより、自分の気づきを表現できるようになってきている。また、気付いたことがあっても、文章で表すことを苦手としている児童もいるため、学習カードの様式を数種類用意したりICT端末を活用したりして表現しやすいようにした。その成果もあり、児童にとって、振り返り表現する活動は楽しい時間となっている。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

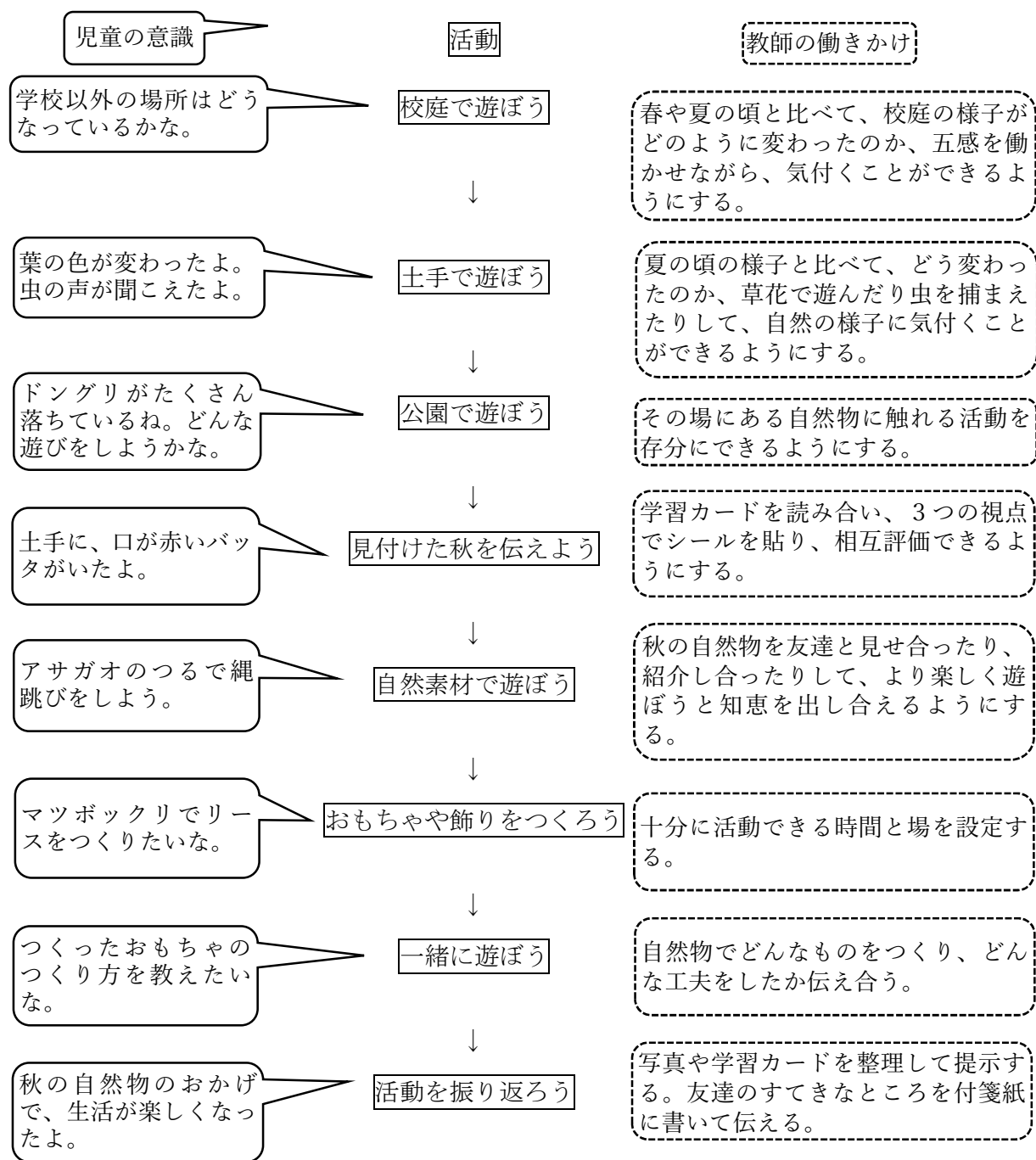
本単元は、児童の実態と学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。ここでは、秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活が変わること、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりすることができるようにすることを目指している。

単元を構成するに当たっては、秋の草花や樹木などの自然物に触れ、それらの自然物や身の回りの素材を利用した遊びを楽しみ、自分自身の生活が楽しく充実したものになるように単元を構成していく。

まずは、身近な秋についてみんなで考えた後、春や夏の頃と同じように校庭の秋を見付け、その後土手や公園に秋探しに出かける。繰り返し対象に関わる体験活動を行い、ICT端末を活用して、春や初夏の時の様子を振り返ることにより、秋の様子や季節の変化に気付くことができるようにする。次に、持ち帰った秋の自然物や持ち寄った身近な物を活用して、おもちゃや飾りをつくる活動を行う。自然物だけで自由に遊ぶ時間を存分にとり、秋の自然のよさを感じたり、特徴を生かした遊びをしたりする時間を設ける。その後、友達と遊び方を工夫しながら遊ぶことで、つくる楽しさや友達と関わる喜びを味わわせる。

単元を通して、児童の思いや願いを実現する体験活動を工夫し、伝え合いや交流、発表などの様々な表現活動を適切に位置付けることで、気付きの質が高まるようにしていく。

(3) 児童の意識の流れ



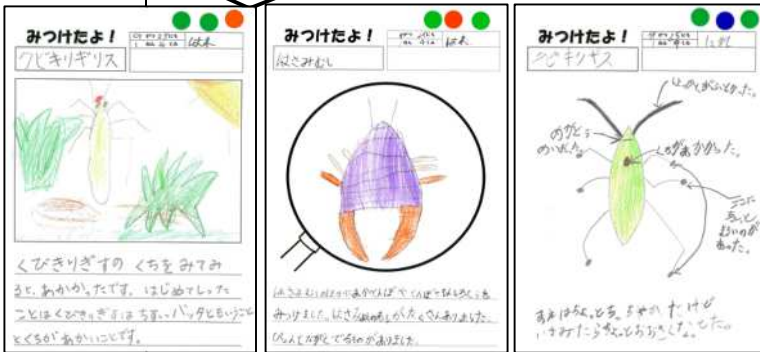
3 単元目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活が変わること、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりすることができるようにする。

4 単元の評価規準と小単元の評価規準（17 時間扱い）

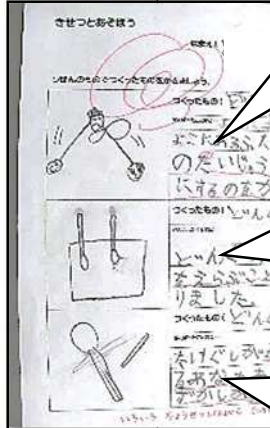
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評価 規 準		秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとしている。
小単元 における 評価 規 準	1 校庭や土手、公園で秋を見付けよう（6）	①植物や生き物、気温、風などの秋らしい自然の様子や、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	①秋の自然の様子について、五感を通して感じたり、春や夏の様子と比較したりしながら、伝え合ったり遊んだりしている。	①身近な自然の様子や季節の特徴を見付け、繰り返し触れ合おうとしている。
	2 秋の遊びを楽しもう（8）	②秋の自然物での遊びを楽しむことを通して、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。 ③みんなで楽しく遊ぶために、遊び方やルールを工夫する大切さに気付いている。	②秋の自然のよさや特徴を生かしながら、遊びに使う物を選んだり遊んだりしている。 ③様々な自然物を比べたり、試したり、見立てたりして、遊ぶ物や生活が楽しくなるものを工夫してつくっている。	②秋の自然物を使って遊ぶ活動を通して、季節の自然物を用いて遊ぶことの楽しさに気づき、身近な材料を加えて、より楽しく遊ぼうとしている。
	3 楽しかったことを伝え合おう（3）		④学習を振り返り、活動してきたことや、作品のよいところを見付けて伝えている。	③秋ならではの活動や四季の生活の変化について関心をもち、これからも積極的に自然と遊んだり、遊びを創り出したりして自分の生活を楽しくしようとしている。

5 指導と評価の計画

小単元名（時数）	主な学習活動	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な児童の姿（評価方法）
1 校庭や土手、公園で秋を見付けよう(6)	①秋の校庭で遊び、気付いたことを紹介し合う。(1) ②土手に行き、季節の変化を体で感じながら遊ぶ。(2) ③公園に行き、秋の自然物を利用して遊ぶ。(2) ④見付けた秋について友達に伝える。(1)	知・技① 思・判・表① 態①	・春や夏の頃の様子と比べてどう変わったのか、草花で遊んだり、虫を捕まえたりして、秋らしい自然の様子に気付いている。 (行動・発言・つぶやき) ・秋の自然の様子について、五感を働かせて感じたこと、気付いたことを友達と伝え合っている。 (行動・発言・カード) ・I C T端末を活用し、進んで季節の変化を見付け、身近な自然と繰り返し触れ合っている。 (行動・発言・I C T端末)
編 P87 指導計画作成留意事項(1)			
			
事例のポイント② 児童の実態や興味関心に合わせて、学習カードを選択させ、主体的に取り組めるようにした。			
			
事例のポイント② 学習カードを読み合い、以下の3つの視点でシールを貼った。 「共感したこと」 「新しく知ったこと」 「もっと聞きたいこと」 自分と友達の気づきの比較を視覚化でき、新たな気づきが生まれ、自分の活動を振り返るきっかけとなった。			
編 P87 指導計画作成留意事項(2)			
事例のポイント① より充実した体験活動になるように、荒川公園緑地公社の方に協力を求めた。生き物の捕り方やコツを教えてもらうことで、活動への意欲がさらに高まった。			
I C T 活用の利点① I C T 端末を活用して、季節の自然の样子の違いに気付けるようにした。画像を活用しながら発表し、秋の様子を具体的に思い起こすことができた。			
キンモクセイの花だよ 			
落ち葉がたくさん 			
大きくて丸い ドングリがあったよ 			

2 秋の遊びを楽しもう(8)	①秋の自然物を用いて遊ぶ。(3)	知・技②	・秋の自然物での遊びを楽しみ、友達と見せ合ったり、紹介し合ったりして、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。 (行動・発言・つぶやき)
		思・判・表②	・秋の自然のよさや特徴を生かしながら、遊びに使う物を選んだり遊んだりしている。 (行動・発言・つぶやき)
		態②	・秋の自然物を使って遊ぶ活動を通して、自然物の不思議さや面白さに気付きながら、積極的に遊んでいる。(行動・発言・つぶやき)
		事例のポイント① 持ち寄った秋の自然物を廊下に掲示し、いつでも手にとれるように環境を工夫した。授業以外でも、自然物で遊ぶ児童が増えた。	
		事例のポイント① 様々な種類の自然物に触れ、その自然物だけの遊びに浸り、没頭することができるよう、体験活動の時間を十分確保した。	
		事例のポイント② どんな自然物を使って、どんな遊びをしたのかを実演を交えて紹介し合い、より工夫できそうなことを話し合った。おもちゃや飾りをつくる次の活動へと、自然につながるようにした。	
		ICT活用の利点② 初めて見る木の実やこん虫など、秋の図鑑や教科書のQRコンテンツを活用して調べ、興味関心が高まるようにした。	
	②秋の自然物を生かしたおもちゃや飾りをつくり、遊びを工夫する。(4)	知・技③	・みんなで楽しく遊ぶために、遊び方やルールを工夫する大切さに気付いている。 (行動・発言・つぶやき)
		思・判・表③	
		態②	・遊びの経験を生かし、様々な自然物を比べたり、試したり、見立てたりして、遊ぶ物や生活が楽しくなるものを工夫してつくっている。 (行動・発言・作品) ・身近な材料を加えて、改良しながら、粘り強く遊びを試そうとしている。 (行動・作品・カード)



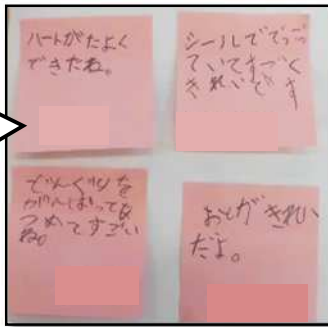
事例のポイント① 友達と協力して試したり、気付きを交流したりして、よりよい物をつくることができるようにした。				
	③つくったおもちゃや飾りなどを紹介し合う。(1)	思・判・表②	・つくったおもちゃや飾りのつくり方を絵や文で表したり、友達がつくれるように教えたりしている。(行動・作品・カード)	
事例のポイント② 作ったおもちゃや飾りを学習カードに書き、作品を見せながらどんな自然物で、どんなものをつくったか、工夫したことなどを発表した。お互いの頑張りを認め合えるようにした。			つくったもの「ドングリやじろべえ」 よこにあるふたつのドングリのたいじゅうをおなじにするのをがんばりました。	つくったもの「ドングリだいこ」 ドングリのかたさをえらぶことをがんばりました。
			つくったもの「ドングリでっぽう」 たけぐしがちょうどはまるあなをあけるのがむずかしかったです。	
3 楽しかったことを伝え合おう(3)	①楽しかったことや友達のよかったところなどを見付け伝え合う。(2)	知・技②	・カードにまとめる活動を通して、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。(行動・カード)	
		編 P87 指導計画作成 留意事項(3)	 ドングリをほってとるのがたのしかったです。 ドングリが、わたしのひざぐらいまでいっぱいありました。	
事例のポイント② 学習カードに書く際は、国語の学習を生かして、「何が」「どんなふうに」楽しかったのか、「何を」「どんなふうに」がんばったのかを意識させ、言葉による表現の力が高まるようにした。	②これまでの活動を振り返る。(1)	思・判・表④ 態③	・学習を振り返り、活動してきたことや、作品のよいところを見付けて伝えている。(行動・作品・付箋紙) ・秋ならではの活動や四季の生活の変化について関心をもち、これからも積極的に自然と遊んだり、遊びを創り出したりして自分の生活を楽しくしたりしようとしている。(行動・作品・カード)	

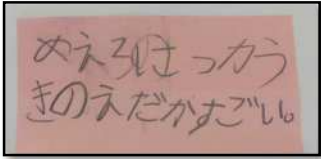
6 本時の学習指導（小単元3 16／17時）

(1) 目標

今までの学習を振り返る活動を通して、活動してきたことや作品のよいところを見付け、伝え合うことができるようにする。

(2) 展 開

児童の活動・意識	評価（●）と支援（○）	時間
1 学習活動を振り返る。 	○前時までに行った活動を画像で振り返り、学習への意欲をもつことができるようにする。 ICT活用の利点① 児童が撮った写真、児童の活動写真等を見せ、季節の変化やこれまでの活動を振り返ることができるようにした。	5
2 本時の活動のめあてを確認する。 3 活動を振り返り、楽しかったことやがんばったことを発表する。 (グループ) ・私は、オナモミがたくさんくっついたタオルを使って、ダーツをつくったよ。(表現方法①) ・虫捕りがとても楽しかったから、気に入ったバッタを折り紙でつくったよ。(表現方法②) ・ちょうちょうをつかまえることが上手になったので、ねんどで作ったよ。(表現方法③) ・ドングリでマラカスを作ったことが楽しかったよ。(表現方法④)	ともだちのすてきなところをつたえよう！ ○学習カードだけでなく、紙芝居、絵、折り紙、粘土、作品、スライド等、自分が表したい多様な方法によって発表できるようにする。 事例のポイント② ICT活用の利点③ 表現方法の選択肢を増やし、児童の思いや願いを大事にして体験してきたことを進んで伝えることができるようにした。  (表現方法①)  (表現方法②)  (表現方法③)  (表現方法④)	10
4 発表を聞いて「すてきな。」と思うところを付箋紙に書く。 事例のポイント② 活動のよいところや作品のよいところを、付箋紙を使って相互評価した。友達同士で伝え合うことで、満足感、成就感、自信へとつながるようにした。	○黒板に書き方の例を示すことで、どの児童にも友達の作品のよさや友達のがんばってきたことを見付けやすくする。  	

5 教室を自由に歩き、友達の素敵などところを見付け、付箋紙に書いて伝える。  	○進んで友達の書いたものやつくったものを鑑賞し、共感したり、褒めたり、次の活動への意欲をもっている児童を称賛する。 編 P87 指導計画作成留意事項(2) 丸いドングリはよくころがるけど、細いドングリはうごきがおもしろいよ。  ●活動してきたことや作品のよいところを見付け、伝え合っている。 【思・判・表④】(行動・記述の内容) ○書くことを苦手としている児童には、実物を見せたり、学習カードの内容を一緒に読んだりして書く視点を与える。 ○付箋紙を使った交流活動の感想を発表し、友達のよさや自分のよさを感じ、次の活動につなげることができるようにする。	15
6 活動をして気付いたことを発表する。  (道徳との関連)	たくさんほめてもらってうれしいね。がんばって作ってよかったな。  ○道徳の時間に秋に関する資料を読んだことを振り返り、生活科の授業と関連付けて、自然の素晴らしさや不思議さに気付くことができるようにする。	5
7 本時の学習のまとめをし、次の活動の見通しをもつ。 ・秋のものをたくさん見付けることができた。冬になったら、はっぱや花はどうなっているのかな。	○単元の初めに書いたイメージマップを活用しながら、今までの活動を振り返り、学習をまとめる。冬も、季節を生かした活動をしていくことを伝える。 	10

7 本実践を振り返って

児童の思いや願いを実現する体験活動になるように、季節ごとに同じ場所に何度も出掛け、自然と触れ合う活動を多く設けただけでなく、校内で自然物をいつでも手に取れる環境を整えたことが、児童の自発的な活動を生み出すきっかけになったと感じている。

表現活動においては、学習カードを選択できるようにしたことで、児童の主体性が生まれた。表現活動後には児童相互の評価を行ったが、視点を設けて学習カードを読み合いシールを貼ったことで、他の児童との共通点や相違点に気付いたり、新たなことに気付いたりして気付きの質が高まっていった。また、付箋紙による相互評価では、頑張ったことや作品のよさを伝え合うことで、満足感や成就感を得ることができていた。もらった付箋紙を眺めながら、自分の変容に意識が向き、自分自身のよさや成長に気付くことができたので、こちらも気付きの質を高める上で有効な活動であった。

本単元では、I C T端末を3つの場面で利用したが、1学期から操作に慣れる必要があると感じた。写真の記録、保存、調べ学習などの基本的な操作から、簡単なスライド作りへと、段階を踏んで指導していくことが大切である。今後はI C T端末のより効果的な活用を考えていきたい。